17th

新響

新交響楽協会

新交響楽団

第17回定期演奏会



THE NEW SYMPHONY ORCHESTRA

17th Subscription Concert

客演指揮　近衛秀麿
Guest Conductor　HIDEMARO KONOE

ソプラノ独唱　常森壽子
Soprano Solo　TOSHIKO TSUNEMORI

楽新協交会響 新交響楽団第17回定期演奏会

虎の門ホール 1968年10月14日(月) 7時

モーツァルト特集——Mozart Cycles

I　歌劇「魔笛」序曲　K. 620
The magic flute Overture K. 620

II　交響曲第 40 番ト短調　K. 550
Symphony No. 40 G minor K. 550

1　アレグロ　モルト
Allegro molto

2　アンダンテ
Andante

3　メヌエット　アレグレット
Menuetto Allegretto

4　フィナーレ　アレグロ　アッサイ
Finale Allegro assai

III　モテット「おどれ，喜べ，なんじ幸いなる魂よ」K. 165
Exsultate, jubilate (o vos animae beatae) K. 165

IV　交響曲第 41 番ハ長調 K. 551 "ジュピター"
Symphony No. 41 C major "Jupiter"

1　アレグロ　ビバーチェ
Allegro vivace

2　アンダンテ　カンタービレ
Andante cantabile

3　メヌエット　アレグレット
Menuetto Allegretto

4　フィナーレ　モルト　アレグロ
Finale Molto Allegro

近　衛　秀　麿

Hidemaro Konoe



明治 31 年，貴族院議長近衛篤麿の第二子として東京に生れた。学習院から大正 8 年，東大文学部へ進み，哲学，美術史を専攻した。大正 10 年，東大を中退，以後音楽に専心，山田耕筰氏について作曲法を研鑽した。

大正 11 年，初めて渡欧し，主としてドイツにおいてゲオルグ・シューマン（理論），フランツ・シュレーカー（作曲法，管弦学法），エーリヒ・クライバー（指揮），カール・ムック（指揮）などに師事した。

大正 14 年，山田耕筰氏とともに日本交響楽協会の設立を図ったが，時期尚早のため失敗，翌昭和元年，新交響楽団（現在の NHK 交響楽団）を創立した。昭和 9 年まで新響の楽団長，常任指揮者をつとめている。

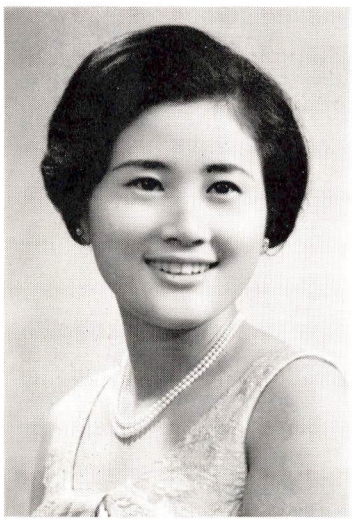
戦前，楽旅 7 回におよび，北米，全欧に足跡をのこした。指揮したオーケストラはベルリン・フィルをはじめとして 90 余団体。

戦後は，東宝交響楽団（現在の東京交響楽団），近衛管弦楽団（ABC 交響楽団）をいずれも創立し，主宰した。昭和 5 年，貴族院議員，昭和 23 年に日本芸術院会員となる。

著書「フィルハーモニー雑記」「オーケストラを聴く人々へ」「風雪夜話」など。他に，雅楽「越天楽」の近代管弦楽編曲など，多数の管弦楽曲近代版編注がある。

常　森　壽　子

Toshiko Tsunemori



昭和 39 年，東京芸術大学声楽科卒業，阿部幸次，浅野千鶴子に師事した。

芸大卒業と同時に，東京混声合唱団に迎えられた。

昭和 41 年，藤原オペラの正月公演“カルメン”のミカエラ役でデビュー，その恵まれた容姿と美声で好評を博した。

つづいて，同オペラ団の“夜間飛行”“トスカ”に出演。その他同年 12 月には NHK テレビで“ヘンデルとグレーテル”のグレーテル役を，42 年には芥川也寸志作曲のオペラ“暗い鏡”で娘役を演じ，正確な音程感覚，および，ひたむきな演技で多大の感銘を与えた。

昭和 41 年，新響ベートーベン全交響曲演奏会・第 9 交響曲でソプラノ独唱を受持ち，新響とはこんどで 2 回目の共演である。

曲目解説

みなさま，こんばんは。

今宵のプログラムにはモーツァルトの作品ばかりを集めました。新響は一昨年のベートーベン交響曲連続演奏会以来，ロマン派の作曲家たち，たとえばブラームス，メンデルスゾーン，ベルリオーズ，チャイコフスキーなどのものを取り上げてきましたが，今回は一転して古典のモーツァルトです。

これは，全時代の作品に触れていこうという新響の意欲的な企画のうち，近代から現代の作品にいたる前の，いわば古典復帰といってもいいかもしれません。しかも指揮者にはわが国音楽界の最長老，近衛秀麿先生を客演に迎えました。秋の宵を，さわやかなモーツァルトでお楽しみください。

歌劇「魔笛」序曲（K. 620）

モーツァルトの代表的な歌劇といえば，「フィガロの結婚」，「ドン・ジョバンニ」，それにこの「魔笛」があげられよう。この歌劇はウィーランドの童話をもとにした神仙，鬼精，魔法などがでてくるお伽歌劇に類する内容であるが，一種の寓意劇ともとれる。魔笛とは，王子タミーノがパミーナ姫を助け出す決心をしたとき現われた夜の女王から渡された黄金の魔法の笛のことで，これが大いに役立ってめでたしめでたしというお話。

序曲は導入部をもつソナタ形式で書かれ，2管編成にトロンボーン，ティンパニを加えたもので，モーツァルトの作品としては大きな編成といえよう。

〔余　談〕

筆者がまだ地方にいて，音楽もなにも知らないまだ小さかったころ，オーケストラというものを初めて見聞き，オペラというものに最初に接したのが，この魔笛であった。口をきいてはいけない約束のパパゲーノが口に大きな錠前をぶらさげていた情景や，パパゲーノとパパゲーナの二重唱のおもしろかったのを今でも覚えている。そのときの指揮をされたのが近衛秀麿氏。その人の棒のもとで演奏できるようになったのも，まさに魔法の笛のおかげか。

モテット「おどれ，喜べ，なんじ幸いなる魂よ」（K. 165）

新響も過去に多くの曲を演奏してきたが，ソプラノのソリストを迎えるのは始めてのことなのである。

ところで「モテット」という言葉を聞いただけでは，あまり親しみのある感じが浮かんでこない。でも，この曲が流れてくると，必ずどこかで聞いたような気がするのではなかろうか。この曲の美しさと親しみやすさが，モーツァルトの音楽の真髄ではないだろうか。

こんやの演奏曲目のうち3曲は，みなさんよくご存知の通り，モーツァルト後期の傑作である。人間はそれぞれの年代で変化するように，音楽作品でも同様に変化がある。この曲は1773年，モーツァルトが17歳のとき，ミラノで作曲されたといわれている。そんな若いとき，こういった名曲を作ったのだから，やはり「天才」の2字があてはまるといえよう。

この曲の自筆の譜面には，次のような順で曲が書かれている。

バイオリン・ビオラ・オーボエ・ホルン・ソプラノ・バス

また，この曲は次のような三つの部分にわかれており，ことに最後の「ハレルヤ」が最もよく知られている。

(1) Exsultate, jubilate（おどれ，喜べ）
(2) Te virginum corona（なんじ童貞者の王冠よ）
(3) Alleluja（ハレルヤ）

〔休憩時間〕　……モーツァルトの交響曲……

今宵の演奏会もいよいよ佳境。このへんで，モーツァルトの交響曲について触れてみよう。

本日は交響曲第40番と第41番の二つを演奏するわけだが，モーツァルトの交響曲のうち最期を飾る三つの交響曲，すなわち，明るく楽しい第39番，叙情的でしかも内部に強いものを秘めた第40番，壮麗な“ジュピター”の名で親しまれている第41番の三つが，形式的な美しさとロマン的でさえある内容からみて，傑作とみられる。しかも，これら三つの作品はわずか1カ月半の間に書かれたものといわれる。

さて，新響では1966年秋にベートーベンの交響曲の連続演奏を行なったが，ベートーベンとモーツァルトの交響曲では，オーケストラ奏者の立場からみて相当に異なっているように思われるので，両者の比較を行なってみたいと思う。

モーツァルトの交響曲とベートーベンの交響曲とでは，形式的にみるとソナタ形式を用いた古典的な構成を

とっており，一見してもたとえば41番の２楽章と５番「運命」の２楽章，41番の４楽章と３番「英雄」の４楽章のフーガによる主題の処理のしかた，同じく41番の４楽章と１番の４楽章の音階的な主題とその変奏などは，奏いていて似ているように感じられる。しかし，同じ編成のオーケストラで演奏した場合，やはり本質的な差があるように思われる。

ベートーベンの交響曲では相当なエネルギーを使って奏かないと音にならないのに対し，モーツァルトではピアノの部分はもちろん，フォルテの部分でも音量に制限をうけるし，それでいてオーケストラはよく鳴っているのである。この違いがなんであるかは，ひとりひとりの考えに差があろうが，筆者の考えではモーツァルトの交響曲がまだ宮廷的，サロン的であるのに対し，ベートーベンの交響曲はすでに市民的なもの，全人的なものになってきており，それに必要な音楽の言葉を要求されているからではなかろうか。

その点，多くの交響曲で第３楽章のメヌエットをよりはげしい内容をもつスケルツォにおきかえてその効果をあげているし，オーケストラの編成にしても別表(p. 13)に示すように，ベートーベンの交響曲では完全な２管編成になっている。さらに，ワインガルトナーの著書「ベートーベンの交響曲」にも書かれているように，管楽器の重複と弦楽器の増強をもって現在，われわれの聞くことのできる形になってきている。それだけの“大きさ”をとしている。一方，モーツァルトの交響曲は，あくまで必要美しく演奏されなければならない。このことはベートーベンで可能であった編成の増強と矛盾するし，モーツァルトの曲と全くかけはなれたものになってしまう。

ところで，オーケストラにとって古典を経験することは必要なことであり，ベートーベンから出発し，ロマン派をこのところ手がけてきた新響にとってモーツァルトは一度は経なければならない関門なのであるが，いまも述べた理由から，これまでとは全く異なった心構えが必要であり，またそれだけに近衛先生の要求に新響がどれだけついていけるかが，新響の課題といえそうである。

固くるしい話になってしまって恐縮だが，ついでに古典的な交響曲の代表ともいうべきモーツァルトの二つの交響曲について，その構造を書くにとどめて，演奏にうつることにしよう。

そろそろベルが鳴るころである。

交響曲第40番　ト短調（K. 550）

第１楽章（Allegro Molto　2/2　ト短調　ソナタ形式）

小節番号
1　呈示部
　第１主題（No. 1）
100　第２主題（No. 2）
165　展開部
300　再現部

〔No. 1〕（Vl I）



〔No. 2〕（Vl I, Fg）



第２楽章（Andante　6/8　変ホ長調　ソナタ形式）……

1　呈示部
　第１主題（No. 3）
53　第２主題（No. 4）
74　展開部
113　再現部

〔No. 3〕（Vl I）
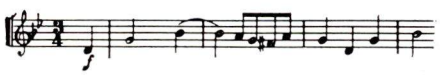


〔No. 4〕（Vl I）



第３楽章（Allegretto　3/4　ト短調　メヌエットとトリオの複合３部形式）……

1　メヌエット（No. 5）
14　弦による美しい主題
22　トリオ（No. 5）
60　牧歌風の木管が美しい
70

〔No. 5〕（Vl I）



〔No. 6〕（Ob）



＜曲 目 解 説＞

第4楽章（Allegro assai　2/2　ト短調　ソナタ形式）……

1 呈示部
　第1主題（No.7）Tutti で激しく
124 第2主題（No.8）弦ではじまる静かな旋律
206 展開部
308 再現部

〔No. 7〕（Vl I）
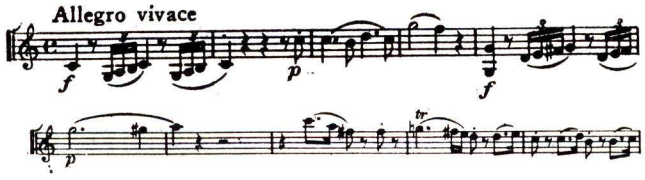


〔No. 8〕（Vl I）



交響曲第41番　ハ長調（K. 551）

小節番号
1 **第1楽章**（Allegro Vivace 4/4 ハ長調　ソナタ形式）
　呈示部
　　第1主題（No.9）
　　第2主題（No.10）
120 展開部
188 再現部
313

〔No. 9〕（Vl I）



〔No. 10〕（Vl I）



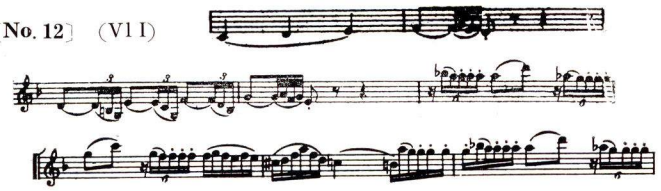
第2楽章（Andante Cantabile　3/4　ヘ長調　ソナタ形式）……

1 呈示部
　第1主題（No. 11）
38 　第2主題（No. 12）
59 展開部
101 再現部

〔No. 11〕（Vl I）



〔No. 12〕（Vl I）



第3楽章（Allegretto　3/4　ハ長調　メヌエットとトリオの複合3部形式）……

1
16 メヌエット（No. 13）
59
67 トリオ（No. 14）
87

〔No. 13〕（Vl I）



〔No. 14〕（Vl I）
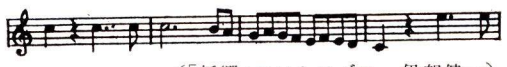


第4楽章（Allgro Molto　2/2　ハ長調　ソナタ形式）……

1 呈示部
　第1主題（No. 15）
　第2主題（No. 16）
157 展開部
224 再現部
355 コーダ
423

〔No. 15〕（Vl I）



〔No. 16〕
（Vl I）



（「新響」コントラバス　伊賀健一）

座　談　会

——近衛秀麿氏を囲んで——

とっておきの話を聴く

（9月23日，近衛音楽事務所にて）

新響創立者の近衛氏が「新響」を指揮するといえば道理にかなっているようだが，知る人にとっては意味合いが異なってくる。それは，二つの新響があるからだ。一つは，NHK 交響楽団の前身である「新交響楽団」，もう一つは，戦後派の「新交響楽団」。前者はプロ，後者はアマという点が違う。もちろん前者は名も変わり，現存していないが，なつかしさを覚える人も少なくないはずである。

近衛氏は，日本音楽界の最重鎮，欧米にながくあって，巨匠の伝統をいまに伝える貴重なお方である。そこで，秋晴れの一日，現「新響」のメンバーうちそろい，先生を囲んでいろいろお話を伺った。以下は，そのうち，ほんの抜粋である。

出　席　者

（敬称略，A，B，C順）

近衛秀麿

（新響）

井上卓也（オーボエ）
平岩　林（ビオラ）
仙名　保（ファゴット）
仙名誠子（ビオラ）
高下次郎（フルート）
滝口　修（ビオラ）

（司会）松永　昇（フルート）

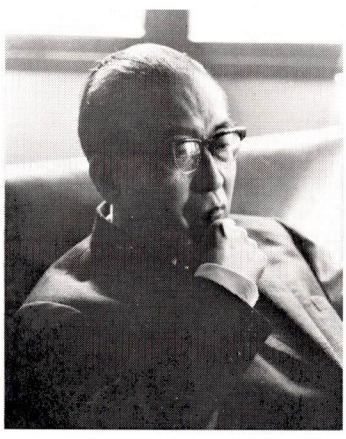
日本のオーケストラの夜明け時代

≪旧『新響』のことから≫

司会　まず『新響』の関係からお伺いしましょうか。『新響』といいますと私たちのオーケストラも「新響」を名乗っております。最初，命名するとき，えらく苦労したということだそうですが，結局，現「新響」が活動期にはいるころ，旧『新響』を知っている人はきわめて少なくなっているだろうという予想のもとにこの名称がきまったんだそうです。

それがはからずも旧新響の創立者である近衛先生をお迎えするということになって，私たち何か因縁めいたものを感じるんですが，旧『新響』創立時の話を少し……。

<近　衛　氏>



近衛　そのころ，山田耕筰先生が『日響』というのを主宰しておられましてね。私もこの『日響』を指揮しておりました。山田先生という方はあまり練習をしないんですね。みんな私がやるんです。

まあ，事情がありまして『日響』から分裂し，旧『新響』ができたわけです。ところで，演奏会をやる直前になってオーケストラの名前がまだついてないんですよ。みんな，演奏するのは熱心だが，そういった事務的なことは得意ではない。きょうじゅうに作らなければ印刷に間に合わないと苦しまぎれにつけたのが，『新交響楽団』というしまつなのです。

昭和元年の正月でしたね，はじめて，『新響』の定期演奏会がひらかれたのは。ところで，この定期演奏会ということば，これは山田先生が発明なすったんですよ。ヨーロッパなんかじゃ予約演奏会といってますね。予約されたら，定期的に演奏しなきゃいかん，というんでできたことばでしょうね。

平岩　日本でも，はじめのころは予約演奏会という名称を使っていましたよ。

≪ラーメン屋にオーボエを……≫

井上　近衛先生は，日本のオーケストラの創生期から関係しておいでですが，当時，楽器を習おうとすると，一体どうしたんでしょうか。

近衛　上野（東京音楽学校，現在の芸大音楽学部）の先生につく以外，なかったでしょう。

井上　すると上野の先生は？

近衛　たいてい留学していたようですね。まあ，はじめのころは，楽譜が読めて，楽器がひけりゃいいという，それはお粗末なもんですよ。

『新響』を作ったころの話ですが，いまでは考えられない悩みがありましたよ。まず，第一は奏者がいないということです。そのころ楽器をやるというのは，軍楽隊か映画館の楽士しかいないわけですよ。その中から良さそうな人をかき集めるわけです。

<井　上　氏>



平岩　カールフイッ

シャーから無声映画のための伴奏楽譜集なんてのが出版されていましたね。


<平　岩　氏>

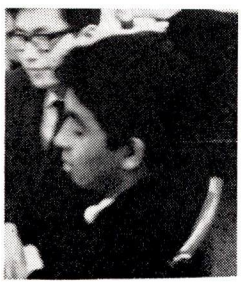
近衛　そうラブシーンのときは何番，決闘のときは何番なんてね。

奏者に話を戻しますが，案外，困らなかったのはフルートですね。日本の横笛の影響で，すぐはいれるんでしょう。

井上　オーボェなんかは困ったでしょう。

近衛　ラーメン屋さんをつれてきてやらしてみたが，これは使いものにならなかったですね。(笑い)クラリネットは割りといましたよ。チンドン屋さんとか，ジンタの関係でしょう。

ファゴットは，ほんとに困りました。以前，東響の指揮者だった故上田仁君をファゴット奏者に仕立てたのは私なんですよ。私がアメリカへゆききしていた当時，彼，船のバンドでピアノを弾いてたんですね。体格がよくて息が続きそうだから，ファゴットはいけそうだと思い，だいぶ口説いたんですよ。ようやく納得してくれまして，２人で練習したんですが，ものすごいファイトだったですね。４カ月目で，ベートーベン第４交響曲で４楽章のむずかしいところ，そうタカタカタカタカ……というのをやれるようになりましたからね。


<仙名保氏>

ホルン…これも良いプレーヤーというのはいなかったですね。ちょうどそのころ，私の弟がホルンを好きになりました。「おれホルン吹きになる」なんて……。家でうらまれましたよ。音楽は秀麿ひとりで結構というわけでね。でも，弟は新響で，50番目ぐらいの定期演奏会まで，ホルンのトップを吹いてましたよ。

≪バイオリンの寒げいこ≫

仙名(誠)　先生，目白の森でバイオリンをおけいこなさったということを何かの本で読みましたが……。

近衛　部屋の中でやるとうるさがられましてね。野球部の連中なんかバットを持ってひっぱたきにくるんです。しかし，冬の練習はつらかった。寒げいこと称しましてね。

滝口　楽器が冷えて無理じゃありませんか。

近衛　それ相応の楽器を使いますからね。(笑い)

司会　『新響』はいつまで指揮なさっていたんですか。

近衛　昭和９年までです。あとはアメリカやヨーロッパなどをなんべんもまわってきました。第二次大戦中は，フランス，ベルギー，オランダ，ドイツなどのメンバーを集めて「近衛伯交響楽団」というのを作りましてね。全ヨーロッパをまわりましたが，これは面白かったですね。しかし，ヨーロッパ戦争が終結になったもんですから，アメリカ軍の捕虜となりまして，昭和20年の暮れ，久しぶりで帰国しました。


<仙名誠子さん>

≪東宝響，近衛管弦楽団，ABC 響……≫

司会　帰国されてからの仕事を。

近衛　昭和 21 年，東宝交響楽団を作りまして，これはおもに日劇，帝劇で演奏会を開いたのですが，その後，東宝が解散したため，つぶれてしまいました。そのメンバーのうち若手で，近衛管弦楽団というのを編成したんですが，第一生命といういいスポンサーがつきましてね，全国をまわっております。これもあとで民放の方へ移ってはゆきますが。

司会　日本のオーケストラ設立と先生とは切っても切れない仲のようですね。

近衛　おもしろいもので，オーケストラというものは，なくなってもなにかどこかで脈打っているんですね。たとえば，東宝が東響になり，スタート時のメンバーがいまでも活動しております。東宝の若手で作った近衛管弦楽団だって ABC 響としていまだに伝統がつづいています。

フルトヴェングラーなど，ヨーロッパの巨匠たち

司会　なんべんも欧州へおいでになっていますが，その想い出を…。

近衛　大正11年ですが，パリからドイツのハンブルグへいったんです。そこのオーケストラを振っていたカール・ムックには参りましたね。彼，もう80歳すぎでしたが，すごい迫力ですよ。指揮なんか，ちょっと手首を動かすんですが，みんなピタッとそれについてゆく。美事なもんでしたね。ボストン交響楽団は，彼が育てたんですよ。

エーリヒ・クライバーには，テンポというか，アゴーギクを習いました。フルトヴェングラーなんて，まだ若僧のころですよ。

クナッパーブッシュというのがいましたけど，ありゃ駄目でしたね。

自分に自信がないもんだから，オケのメンバーにおべっか使うんです。日本ならマージャンだが，向こうはブリッジでね。いっしょにやってワザと負けるんですよ。いやな奴でした。


<高　下　氏>

ぼくは，図々しい方だから，のこのことどこへでもはいってゆくんです。R・シュトラウス，シベリウス，イタリアのモリナーリ，レスピーギ，みんな印象に残っています。

司会　その中で特に印象に残っている話を……。

≪pは全くひかない……≫

近衛　フルトヴェングラーの練習を見にいったときでした。「もっとピアノ，もっと，もっと……」と要求するんですね。しまいには，だれもひいてる人がいない。そこでひとこと，「よろしい」。ファゴットのローテンシュタイナという人が茶目っ気たっぷりでしてね。フルトヴェングラーに可愛がられているもんだから，何をいっても怒られないんですよ。「誰もひいていませんよ」といったもんだから，失笑続出……。

仙名(保)　そのファゴットの人は，つい先ごろ交通事故でなくなられたようですね。

近衛　そうらしいですね。

司会　そうしますと，わが新響はいつもひきすぎですね。

近衛　ええ，どうもピアノのところは，いつもひきすぎといえますね。

司会　ストコフスキーとは，朝4時ごろまで映画を見たりしたとか。

近衛　彼とはいまでも仲よくしてますよ。年とったので，いまは早く寝るらしい。(笑い) しかし，夜中に思いたって訪問し，窓の下から口笛吹いて呼び出すなんてことは，この東京じゃ考えられませんね。

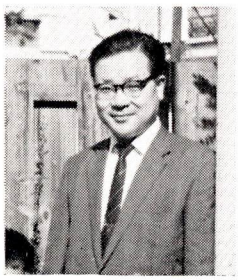
高下　京都じゃ，ぼくらよくやりましたよ。エロイカのテーマなんか口笛ふいてるやつが近付いてくる。それから延々と酒盛り……。(笑い)

ところで，向こうの指揮者は酒はいかがですか。

近衛　指揮者でのめないという人はいなかったですよ。最近の若い指揮者は，その点，だめなようですね。若い美しいカミさんに入れ上げたりしていましてね。

アマチュアオーケストラとのつきあい

司会　わたくしたちの新響を練習で2回ほど振っていただいたんですが，感想はいかがですか。


<松　永　氏>

近衛　いままで，たくさんのアマチュアオーケストラとおつきあいしていますので，どんなことが起っても驚きませんよ。(笑い)

北九州交響楽団というアマオケがありましてね。ときどき指揮しています。オーケストラとしては技術的にも未完成なんです。それに管なんか，みんながトップを吹きたがるなんてところがあるんです。少し響きがじゃまな場合もあるんで，ここはここは吹いて，このところは吹かないで，なんて指示をするんですよ。(笑い)しかし，団員は音楽につかれたような人たちばかりなんですね。とくに，製鉄所の人たちなんかそうです。そういったところが，私には魅力的なんですよ。

そのオーケストラに市から，年に5万円補助金が出ている。5万円ですよ。それも貰うか止めようかで議論しています。

ぼくは，くれるものは大いに貰いなさい，といってる。

それから，このオーケストラの活動を，NHKがじゃまするんですね。たとえば，演奏会を開こうとすると，その前にそっくり同じプログラムを組み，大阪あたりからオーケストラをよんで演奏させるんですね。ちょっと子供っぽいやり方ですよ。

高下　北九州交響楽団のバックに民放がついているからじゃありませんか。

近衛　そうかも知れません。

平岩　補助金はとっておかないと，実績がなくなりますからね。

近衛　そうですよ。それにくらべると，東京都のオーケストラなんか年に1億円使っているんだ。

この前，どこかでいったんです。1億円のオーケストラと5万円のオーケストラとコンクールやらしたら面白いだろうってね。もちろん，技術を競争するわけじゃない。聴衆の感銘度といったものをですね。それを聞いた北九州のメンバー，「いいでしょう。やりましょう」だって，うれしいですね。

ぼくは良いオーケストラなら，世界中，ひととおり知っていますから，驚かないですよ。目下，悪いオーケストラに興味を持っています。

いや，これはあなたがたの「新響」をいっているわけじゃありません。

司会　オーケストラ活動を永続させる秘訣といったものを一言で。

近衛　固定した顔ぶれでやるということ，これがアンサンブルのよくなる極意じゃないでしょうか。

司会　どうも長い間，ありがとうございました。

＜連載・戦後オーケストラ小史＞ V

馬　場　　健

新しいオーケストラの誕生

昭和26年９月，商業放送の開始は，オーケストラ界にも大きな転機をもたらした。同じ年，≪日本交響楽団≫が，≪ＮＨＫ交響楽団≫と改称して，名実ともに日本放送協会の傘下に入ったのを除けば，その他のオーケストラは，強力な財源をほとんどもたなかったといってもよい。その意味で，大きな経済力と電波による広範な伝播力をもつ商業放送局は，各オーケストラにとっては，大きな魅力だったし，放送局側でも，何らかの形でオーケストラと結びつく必要があった。しかし多くのスポンサーと視聴率に左右されがちな商業放送にとっては，莫大な経費を要するオーケストラを，完全にかかえ込んでしまうのは，冒険でもあった。そこで，多くの放送局は，既存のオーケストラと専属またはそれに準ずる契約を結ぶことによって，その需要をみたした。昭和26年，東宝から独立して，≪東京交響楽団≫と改めた≪宝響≫が，直ちに≪新日本放送≫や≪ラジオ東京≫，少し後に≪RKB毎日放送≫，≪中部日本放送≫，≪東北放送≫などと契約を結んだのは，その好例である。

一方，昭和26年に設立され，翌27年に開局した財団法人≪日本文化放送≫は，昭和31年２月，改組して株式会社≪文化放送≫となるに際して，新しい専属オーケストラの編成を企図，渡辺暁雄を常任指導者として，３月から編成にとりかかり，６月３日には，初放送を行なうところまで漕ぎつけた。６月22日には，帝国ホテルで発起人会を開き，≪文化放送≫社長，水野成夫を理事長に，名称も≪日本フィルハーモニー交響楽団≫と決まった。コンサートマスターには，岩淵竜太郎のほかに，アメリカからブロータス・アールをむかえ，９月23日，日比谷公会堂で，披露演奏会を行なった。指揮は渡辺暁雄，独奏者はアールで，モーツァルト≪魔笛≫序曲，シベリウスの交響曲第４番，メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲，リムスキー＝コルサコフの≪スペイン奇想曲≫が演奏された。

楽員の編成に当っては，東京芸術大学，桐朋学園短期大学の卒業生など若手を多く集め，平均年齢27歳という若さであった。若返えりを図りながらも，なお戦前からの楽員をかなりかかえていたＮ響や東響に対して，その若さが魅力となり，とくに弦楽器群の若々しい新鮮な響きは，Ｎ響，東響に対する第３勢力の誕生を思わせたしまたプログラムにも，バロックや古典派の弦楽中心の作品やアメリカの現代作品を加えるなど，他のオーケストラにはない特色を強く打ち出していた。定期公演を開始した翌昭和32年４月から６月までのプログラムを，同じ時期のＮ響，東響のプログラムと比べてみれば，そのことは歴然とする。

〔**日本フィル**〕

第１回　４月４日
- J. C. バッハ：シンフォニア変ロ長調
- ヴィヴァルディ：≪四季≫より春
- ガーシュイン：ピアノ協奏曲ヘ調
- シベリウス：交響曲第２番

第２回　５月28日
- モーツァルト：交響曲第40番
- チマローザ～ベンジャミン：オーボエ協奏曲
- 黛敏郎：フォノロジー・サンフォニック（委嘱作品）
- ストラヴィンスキー：≪火の鳥≫

第３回　６月30日
- ベートーヴェン：交響曲第３番≪英雄≫
- マーラー：≪子供の魔法の笛≫
- ファリャ：組曲≪三角帽子≫

〔**Ｎ響**〕

第385回　４月15，16，17日　指揮ロイブナー
- ベートーヴェン：≪レオノーレ≫序曲第３番
- モーツァルト：ピアノ協奏曲ハ長調　K. 467
- ブルックナー：交響曲第４番

第386回　５月15，16，17日　指揮ロイブナー

R.シュトラウス：≪ドン・ファン≫
ブラームス：アルト・ラプソディ
ベートーヴェン：交響曲第3番≪英雄≫

第387回　6月13，14，15日　指揮ロイブナー
ストラヴィンスキー：≪花火≫
シベリウス：ヴァイオリン協奏曲
シューベルト：交響曲第7番ハ長調

〔**東響**〕

第85回　4月11日　指揮上田仁・奥田道昭(ブラームス)
松平頼則：フィギュール・ソノール
クレーベ：情景
シュピース：協奏的交響曲
ブラームス：交響曲第2番

第86回　5月9日　指揮：斎藤秀雄
安部幸明：交響曲第1番
ヘンデル：オラトリオ≪メサイア≫より
プロコフィエフ≪キージェ中尉≫
コダイ：ガランタ舞曲

第87回　6月20日
武満徹：弦楽のためのレクイエム
ルーセル：小管弦楽のための協奏曲
シューベルト：交響曲第5番
ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第3番

≪日本フィル≫が誕生した昭和31年，関西にも新しいオーケストラが生まれた。それはある意味で，日本のオーケストラ史上，特筆すべき出来事だったといってもよい。地方公共団体である京都市が，オーケストラをもったのである。進歩的な思想の持主であった時の京都市長高山義三は，古い伝統の町＜京都＞に＜新しい文化財，新しい伝統を＞をモットーとし，その理想の現れの一つとして，オーケストラの結成を思い立ったのである。その高山市長の理想を市議会も承認して，昭和31年4月，高山市長を楽団長とし，当時，京都市立短期大学教授であったカール・チェリウスを常任指揮者として，≪京都市交響楽団≫の名称のもとに発足し，6月に披露公演を開いた。当時，関西では，朝比奈隆を常任指揮者とする関西交響楽団が唯一のメジャー・オーケストラであり，しかも常に経済的基盤に不安をもっていただけに（昭和34年に分裂)，地方公共団体をバックとする≪京響≫の誕生は，注目を集めた。当初は，その演奏能力には，かなり不安がもたれたようだが，チェリウスの厳格な訓練の成果が次第にあがって，関西における第2勢力としての確固たる地歩を築くに至った。なかでも，昭和33年から36年にかけて，二期会と協力して行なった≪二期会＝京響オペラ・シリーズ≫は高い評価を受け，昭和34年には第10回毎日音楽賞，大阪府民劇場賞，大阪府芸術祭賞を受賞，昭和36年には文部省芸術選奨，昭和37年，大阪市民文化祭芸術賞などを受けた。わが国初めての地方公共団体によるオーケストラとしては，後の東京都交響楽団の構想から発足，さらにはその後にかけてのもたつきぶりと比べても，異例の成功だったといわねばならない。

昭和31年という年は，以上見てきたように，なんらかの形で戦前から存続してきた既存のオーケストラに加えて，商業放送を後楯とする≪日本フィル≫，地方公共団体をバックとする≪京響≫という全く新しいタイプのオーケストラの設立とその成功をみた年であり，私には，第2次大戦後の日本のオーケストラが迎えた第2の転期であったように思われる。そしてこれら二つのタイプのオーケストラの成功は，数年後の≪読売日本交響楽団≫(昭和37年)，≪東京都交響楽団≫(昭和40年）の設立を促している点でも重要である。そしてまた≪京響≫の成功は，細々とほとんど援助なしで活動していた地方オーケストラ（アマチュアも含む）にも，活力を与えた。

また同じ昭和31年には，≪宝響≫改組に際して常任の地位を辞した近衛秀麿による≪近衛管弦楽団≫（≪エオリアン・クラブ≫から改称）が，≪ABC 交響楽団≫となった。

（筆者：音楽評論家）

異色討論会

モーツァルトは，暗殺されたか？

モーツァルトは，1791年12月５日，35歳という若さでその生涯を閉じました。ところで，彼が死ぬ前後のことは，いまでもはっきりわかっていません。

さて，去る９月22日に放送された，NET の TV 番組「題名のない音楽会」は，モーツァルトの死をめぐって特集を組みました。題して，「モーツァルト暗殺事件」。その内容は，当夜の聴衆のみなさまにも，必ず興味を持っていただけると思いますので，VTR ならぬテレコをプレイバックし，討論会ふうに再現してみましょう。

≪登場者≫（敬称略，発言順）

皆川達夫（音楽評論家）
大野義輝（天文学者）
石山昱夫（法医学者）　　（司会）　黛　敏郎

黛　今回は「モーツァルトの伝記」をテーマにしたいと考えています。

モーツァルトの作品――特に晩年のものには，一種のかげりといったものが色濃く出ております。そこで，彼にまつわるいろんな伝説などを照合することで，その暗いかげりの秘密といったものを探り当てたいと考えています。つまり，文学的な角度からモーツァルトの作品研究を行なおうというわけです。

では，「モーツァルトの伝記」から，その終章の一部を読んでみましょう。

「1791年12月５日，モーツァルトはその35歳の生涯を終えた。翌６日の午後３時，ウィーンの聖ステファン教会で３等級のみじめな葬儀が営まれたが，集った数人の友達も折から荒れ狂っていた雪まじりの雷雨に恐れをなしてか，棺を墓地まで見送る者はだれ一人としていなかった。死体は共同墓地に埋葬されたが，こんにちにいたるまで，その正確な場所は知られていない」

ところで，私がふしぎに思うのは，たとえ雷雨が荒れ狂っていたにせよ，棺を墓地まで見送るものが一人もいなかったほど，モーツァルトの晩年が孤独であったということなのです。「屍体は共同墓地に埋葬されたが，こんにちにいたるまでも，その正確な場所が知られていない」というところをみると，私はモーツァルトが死のうと，どうしようと，当時の人々にはたいした事件ではなかったらしいと考えるんです。

皆川　その意見は，ちょっといただけませんね。むしろ重大な誤謬だと指適したい。伝記の内容をくつがえすぐらいの証拠はいくらでもありますよ。

黛　ホホー，どんなことでしょうか。

皆川　モーツァルトの死ですが，私は断然，他殺説をとっております。

こういう推理をした第一の証拠物件として，ここへ持ってきましたが，ニコラス・スロムスキーの論文に掲載された1791年12月６日のウィーン天文台の古記録，およびカール・ツィンツェルビルフ伯爵の日記があります。

黛　しかし，1791年といいますと，アメリカが独立宣言した15年後，また，フランス革命の２年後，そして，わが国では江戸時代の寛政３年というころですよ。ウィーン天文台の記録の信憑性に疑問を抱きますね。

皆川　では，その疑問に対する証人がおられます。大野さん，どうぞ。

大野　私どもは，当時の気象に関する記録の信憑性は十分だと考えますね。1791年といいますと，今からおよそ180年ほど前のことになりますが，ヨーロッパ各地では200年ていどの気象の記録は確実に残っております。12月６日当日は，気温が最高６，７度で，弱い東の風が吹いてはいましたが，決して嵐なんかではなかったと，専門家の立場からはっきり証言できます。

黛　そうしますと，ベートーヴェンの死んだ日――1827年の３月26日――英雄の死をいたむかのごとく激しい嵐が吹いたと伝えられていますが，これも伝記作者のレトリックでしょうか。

大野　やはり，ウィーン天文台の記録によりますと，「午後３時から嵐となり，同時に雷光おこる」と明示されておりまして，それは事実でございます。

黛　しかし，1856年から59年に出版されたヤーンの「モーツァルト伝」は，“ウィーンの朝刊紙から嵐の件を引用した”とわざわざ注釈をつけておりますが……。

皆川　ヤーン以前の文献には，嵐に関する記述がないという事実はいろいろとあげられます。とりわけ，モーツァルトの未亡人が再婚したニッセンの回想録――これは1828年，ライプチッヒにおいて出版されたものですが――なんかはっきり出ておりますね。

黛　では，なぜモーツァルトの墓が不明である理由を嵐のせいにしなければならなかったのでしょうかね。

皆川　それはさっき言いました他殺説と大きな関連があります。私はモーツァルトは毒殺されたと考えているのですが，これの信奉者である石山さんに，ひとつ話を伺いましょうか。

石山　モーツァルトの臨終の症状として，けいれん，むくみ，頭痛による不安感がともなったという記録が残されております。これは，明らかに水銀中毒の症状ですね。つまり，こっそりとだれかに水銀を含んだ毒薬を盛られていたのではないか，と推理できるわけです。

また，そのころ，ウィーンでは埋葬に際して，２人の医者の検死書が必要だったそうです。ところが，この点でもモーツァルトに関するかぎり，ルール違反が行なわれていたらしいフシがあるんです。このように，死んだ直後の処理のしかたにも，あまり納得のゆかない点がいろいろと発見されるわけですね。

黛　しかし，当時のオーストリアの法医学的知識といったものは，まだまだ不完全だったんじゃないでしょうか。

石山　いいえ，りっぱなものですよ。ここに，徳川幕府時代，渡来した医学書がありますが，いまからみてもたいしたものですね。

黛　どうも話が具体的になってきましたね。モーツァルトの作品――それも晩年には，暗いかげりがつきまとっていたという話がこのように発展してきたわけですがそれにしても，なぜ自殺であったと考えてはいけないんでしょうか。なぜ，他殺でなければならないんでしょうか。すると，加害者は？　動機は？

皆川　それにお答えできる証人を喚問しましょうか。ただ，それは人間ではありません。音楽です。レクイエム……。

黛　黒ずくめの服を着た不思議な人物が，モーツァルトにレクイエムの作曲を依頼したという話が伝わっていますね。

皆川　モーツァルトがサリエリという人によって毒殺されたという話は，いろいろの本の中に出てきます。たとえば，プーシキンの“モーツァルトとサリエリ”，またソ連の音楽学者イーゴル・ベルザの“モーツァルトとサリエリ”さらに，ウィーンの音楽史学者ギード・アドラーの“サリエリの告白書”などがあげられましょう。

しかし，私はそれ以上に，マチルデ・ルーデンドルフという人の発表した見解を支持しますね。というのは，モーツァルトはフリーメーソンの一味によって謀殺されたというんです。事実，サリエリもニッセンも，そしてレクイエムを依頼した謎の人物も，のみならずモーツァルト自身もフリーメーソンの一味だったんですからね。

黛　それは，認めざるを得ませんね。モーツァルトが“魔笛”を作曲したのも，フリーメーソンの実情を暴露するのが一つの狙いだったと伝えられておりますから。

皆川　モーツァルトは殺され，屍体は，誰の目にも届かぬところへかくされた――これが私の最終結論です。

黛　他殺と断定するには，いささか証拠不充分じゃないかと思いますね。モーツァルトという人は，所詮，誤解を招きやすいナィーブな魂の持ち主だったのが，このような説の出てくるゆえんじゃないんでしょうか。だから，いつも孤独だったのでしょう。

ところで皆川さんは，この＜モーツァルト毒殺事件＞のほかに，＜ハイドンの頭ガイ骨事件＞＜ベートーヴェン変死事件＞の諸説についても卓説をお持ちとか……。

皆川　それらの説については，また別の機会でうんちくを傾けたいと思います。また，モーツァルトの件についても，こんどはもっと底力のある証拠をお目にかけることにしましょう。

黛　どうも，きょうは思いがけぬお話を聞くことができました。しかし，それは決して回り道ではなく，そのおかげで，少なくともモーツァルトが，いまなお人々の心の中に生きているということが，改めてよくわかりました。

〔表〕　モーツァルトとベートーヴェンの交響曲の編成の一例　（p. 5 参照）

楽器 / 交響曲	Picc.	Fl.	Ob.	Cl.	Fg.	Hn.	Tp.	Tb.	Timp.	
モーツァルト第40番		1	2	2	2	2				弦　5　部
モーツァルト第41番		1	2		2	2	2		1 対	
ベートーヴェン第３番		2	2	2	2	3	2		1 対	
ベートーヴェン第５番	1	2	2	2	2	2	2	3	1 対	

新響・次回演奏会予告

新響・ベートーヴェン第9交響曲特別演奏会

日　　時　1968年12月23日（月），26日（木）　午後7時
会　　場　日比谷公会堂
曲　　目　1）「トッカータとフーガ」ト短調……バッハ－ストコフスキー
　　2）交響曲第9番ニ短調……ベートーヴェン
演　　奏　新交響楽団
合　　唱　合唱団　鯨
指　　揮　芥川也寸志
入 場 料　500円，400円，300円　（各プレイガイドで発売中）

新響・第18回定期演奏会の予告

日　　時　昭和44年4月1日（火）
会　　場　東京文化会館大ホール
曲　　目　1）組曲「道化師」……カバレフスキー
　　2）ピアノ協奏曲ニ長調 K. 537「戴冠式」……モーツァルト
　　3）交響曲第5番……ショスタコビッチ
演　　奏　新交響楽団
指　　揮　芥川也寸志

新響の団員を募集しています

メンバー表を見てもわかるとおり，新響団員は，サラリーマン，学生，主婦などで構成され，音楽を職業としている者はおりません。

どなたでも，簡単なテストを受けて団員になることができます。

問合せ先　千代田区神田駿河台3の6　全電通会館（日音協気付）
新交響楽協会　TEL（253）9831

輸入楽譜のことなら，どんな事でも御相談ください。
管弦楽，器楽曲譜面，沢山在庫しています。

アカデミア・ミュージック株式会社
文京区本郷2丁目26—11
TEL. 813—6751（代）　都電・本郷二丁目　地下鉄・本郷三丁目